

言葉づかいに心を込める



目上の人や学校の先生に対して、ていねいな言葉をつかうことを教えましょう。



- いちばん身近な親が、言葉づかいを教えることが大切です。
- 年上の人や大人の人には、ていねいな言葉づかいをしましょう。
- 親自身がTPO（時・場・場合）をわきまえた言葉づかいを心がけることも大切です。子どもは聞いて育ちます。



ていねいな言葉づかい

- 言葉はゆっくり、はっきり言います。
- 「〇〇です。」と、終わりまで言います。
- 単語で終わらないようにします。
(例)「先生、紙」(×) → 「先生、紙をください」(○)

- ていねいに「あいさつ言葉」を言います。

(例)

朝： 「おはようございます」

寝る時： 「おやすみなさい」

昼： 「こんにちわ」

別れる時： 「さようなら」

夜： 「こんばんは」

感謝する時： 「ありがとうございます」

出かける時： 「行ってきます」

謝る時： 「ごめんなさい」

帰った時： 「ただいま」

困っている人に： 「どうしましたか？」

食事の時： 「いただきます」「ごちそうさま」

- 目上の人や学校の先生には、「～です」「～ます」をつかいます。

(例)「先生、おはよう。」(×) → 「先生、おはようございます。」(○)



親や大人が身をもって教える交通ルールやマナー



子どもにルールやマナーを守ることの大切さを教えましょう。



マナー、ルールは教えること

- 交通ルールを守って、自分の身は自分で守るようにします。
- 公共のマナーを守って、お互いに気持ちよく生活します。
- 社会で許されないことは、家庭や学校においても許されません。
- 親や大人が身をもってルールやマナーを守ることが無言の教育になります。



自転車の交通ルール

- 自分の体（身長）に合った自転車に乗ります。
- ヘルメットをかぶります。
- 『13歳未満の子どもは「歩道」を走ってよい』という例外規定がありますが、歩行者優先です。安全のために、1～4年生は、歩道（車道側）や自転車専用道路を走ります。車道と歩道の区別の無い道路では、左側の端を走ります。
- 横断歩道では、信号が青になっても左右をよく見てから渡ります。
- 車のかげから飛び出さないようにします。
- ゲーム機などを使いながら走りません。
- 二人乗りをしません。二人横に並んで走りません。
- 暗くなったら、必ずライトをつけます。

※ 被害者だけでなく加害者になる危険性があります。
「自転車保険」に入ることをお勧めします。

<事事故事例>

自転車に乗っていた小学5年の男児が散歩中の女性と衝突。

女性を寝たきり状態にさせてしまった小学生の親に「監督義務を果たしていない」として、裁判所は約9500万円の賠償を命じました。（2013年）



公共のマナー

- ゴミのポイ捨てをしないようにします。
- 壁などに落書きをしないようにします。
- 電車やバスの中では、静かにします。お年寄りや体の不自由な人に席をゆずります。

親同士のつながりが子育ての力に



子育ての悩みを共有できる仲間をつくってみましょう。



- 子どもの成長のうえで、友達の存在は必要不可欠です。同様に、親にも「子育て仲間」が必要です。悩みや心配事を気軽に相談できる仲間が身近にすることで、悩みを解消できたり、解決へのヒントを得られたりします。

仲間づくりのヒント

● 地域行事への参加

地域の子育て世代の人たちと積極的にかかわりをもつとよいでしょう。その機会や場として、地域行事があります。子どもと一緒に参加することにより、親子共々、仲間同士のつながりがもてるようになります。



P T Aとは？

Parent Teacher Association の略。

児童・生徒の健全な成長を図ることを目的に、保護者と教員により学校単位に組織された任意団体。

P T A 活動は、自発的な奉仕意欲によって行われます。同年齢の子どもを持つ親は同じような経験をしたり、悩みを抱えたりしています。いろいろな方々の話を聞き、意見を交換することにより、親同士も信頼関係を築くことができます。

親としての成長の材料が P T A 活動にはたくさんあります。

● P T A 活動等への参加

仲間をつくる絶好の機会です。「子どもの健やかな成長」という共通の目的をもっているからこそ、子育ての悩みも共有することができます。そして、子育ての大きな力になってくれるものと考えます。



お互いに心がけたいこと

- 周囲の人たちとの交流をもち、「子育て仲間」を作りましょう。
- 孤立した家庭や家族ができないように、声をかけ合いましょう。